

文化財保護強調問題  
かけがえのない日本民族の宝を、われわれ一人一人の責務として保護し、末永く後世に伝え得るようあらためて郷土の文化財の現状を熟視することを、今年当村に文化財保護委員会が編成されたのを機会に考えよう。

感謝と勤労感謝の日  
はかる勤労感謝の日。自分の勤労について反省し、その成果を楽しむこと。各人がお互に他の勤労のおかげをこうむつていることを考えてお互いに感謝しあうこと。さらに向う一年の努力を誓いあおう。祝日がたんなる休日に終つてしまつては、その意義の大半を失なうであろう。他の祝日の場合には、直接的には自分の生活と関連がうすい内容であることもなくない。旅行を楽しむ日ではない。旅行を楽しむ日となるおそれがある。ことにそれが一般的の傾向とみられる。勤労を尊び感謝の日は旅行を楽しむ日となるおそれがある。ことにそれを計画するのが一般的傾向とみられる。勤労を尊び感謝する日という内容において旅行しながら勤労が結構なことである。また家で休養をとるためにしても勤労を土台にしてつくられていく現代の産業を認識し、明日からも働くよう

# 昭和41年度 岩室村文化

全 村				瀬 地 区		岩 室	
10月 30日	3 日	13日	20日	1 日	1 日	3 日 ~ 4 日	
村民ハイキング(米山登山)	赤ちゃん 健康優良児 表彰式	第9回 村民囲碁将棋大会	第5回 村民卓球大会	児童作品展 学芸発表会 婦人会作品展	教育映画祭(夜) 生徒作品展	児童作品展 バザーフェスティバル	お花池の坊展示会 学芸発表会(3日午後)
米 山 993米	岩室村役場	和納区事務所	長所小学校	瀬間小学校	中瀬間校舎	岩室小学校	学校

△伝説▽  
お松とお杉

翌朝出立の際、宿料の仕訳書を差し出すと、娘達を見て、お松が顔を赤くして、恥じらいながら「まことにすみませんが、私達村に少し足りませんで、御主人が少し足りませんで、お貸し下さり、私達の村を通ることもあり、あろうかと思ひます。その時きつと、お返しいたしませんから、どうぞお貸し下さいませんか」と願った。お杉も主人まで赤くして黙り越した。主人はあんまり遠い越しが後へ行くことがどうしてあるうかと思つたが、娘達のいじらしさに快よく承知して、二人が無事故の村まで帰りつくことを念じて見

の上の上書き添字を各添字ごとに複数個まで適用

通した錢がかかるつていまし  
た。取つて見ると去年娘達  
に貸した金額「おかしなこと  
もあるものだ」となれば、  
あめたりを見たせば、僅か  
離れた山麓に老杉が、うつ  
そうとしてそり立つてい  
る。さては去年の娘達あれ  
ほど明確に、村の様子を語  
ったのにかかわらず、村人  
に尋ねれば誰も知る人もな  
い、この松の枝にこの錢、  
そして老杉、さてはと心懶  
い、いやつなづき、そのあたり  
に田を耕して、いる老夫婦に驚  
させばその老夫婦非常に驚  
させ「それこそ、去年參宮せ  
じ二人の娘はまさしくこ  
ン老松、老杉の精ですよ」  
と答えました。「さればそ  
の錢を収めて二木の精を安



送った。すると急に翌年、主張せしめられよ」とすすめ思ひがけなく用事ができ、主た。宿の主人さればとてもこのままでは越後宮彌彦神社にこれか後の道中の無事を祈り、主として石瀬村に通りかかって石瀬村の錢を納めていつまでもこのままではござらぬことを立去ったということが度もなるまで振り返りふり返りして立去ったということである。

□

伊勢宮は鍛金以前は白族、貴族以外は参拝できなかつた。以後江戸時代は伊勢信仰は熱狂的になり、定期的に「お祓まいり、抜きまといり」と称して参宮することと定められました。このことから、商家の年期賀公ので、ち、小僧までそぞろくと、道はたに老松が見えた。あまりにもその枝振が良いのでその木の下で一息入れてつくづく見入っていると、地上に垂れんとしている枝に「ひも」に積みたて友人、近所の人達がおこり、風習がおこり、錢でいろいろな供應を受けながら参宮の風習があつた。又「伊勢講」で旅費を貰つた。

# 祭行事宜予定表

地 区		和 納 地 区						
3日～4日	2日	1日	3日～4日	3日～4日	3日～4日			
生徒作品展 婦人会作品展 菊花展示会 (4日)	教育映画祭(3日午後1時30分)	種豚品評会	和奈美定期抽せん会 (1日前10時)	文化財民俗資料展示会 婦人会作品展 婦人会PTA賛助出演 (3日) 児童作品展 (3日1日限)	教育映画祭(4日午後1時30分) 給食展(文部大臣表彰記念 2日間)	お茶席 古流展示会 石州流	菊花展示会	銘石展